

伊丹市 文化財ボランティアの会

発行:伊丹市文化財ボランティアの会

発行所:伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課内 (伊丹市千僧1-1-1)

ひのえ うま
丙 午



INDEX

▶令和8年新年のご挨拶	P 1
▶令和8年新年会・新入会員歓迎会開催	P 2
▶第31期新入会員の紹介	P 2
▶史跡ガイドレポート	
① 令和7年度いたみ歴史散歩 西国街道を歩く第2回「千僧村から大鹿村の歴史を辿る」	P 4
② 短時間でのご案内でも	P 5
③ 伊丹まち歩きと「酒と文化の薫るまち」	P 6
④ 「有岡城跡」を起点とした近隣の史跡巡り	P 7
⑤ 清酒発祥の地・伊丹のルーツである伊丹郷町を巡る	P 8
⑥ 伊丹市の歴史遺産を学ぶ(県立伊丹高校)	P 9
⑦ 有岡城跡、猪名野神社、旧岡田家住宅・酒蔵を巡る	P10
⑧ 「清酒発祥の地伊丹」五感で体感ツアー第5回	P11
⑨ 『寒さに負けず伊丹を歩こう』有岡城から伊丹ミュージアム	P12
⑩ 令和7年度いたみ歴史散歩 西国街道を歩く第3回「辻村から北村へ」西国街道周辺北伊丹地区を歩く	P13
▶第31回文化財ボランティア養成講座 養成講座の締め括りは「当会会員ガイドによる現地史跡巡り」	P15
▶研修サロン班活動報告 近隣市めぐり 「大塩平八郎と伊丹—大阪市北区」	P15
▶寄稿 大鹿村と禁制	P16
▶学習支援班活動報告	
①いたみ民話会公演 荒村寺まちカフェー紙芝居とペンケース作り	P17
②いたみ民話会公演 わかばこども園	P18
▶令和8年度いたみ歴史散策(市民ガイド)のご案内	P19
▶令和7年11月~令和8年1月活動記録	P19
▶令和8年2月~4月活動予定	P19
▶伊丹市内文化財ボランティアガイドのご案内	P20

令和 8 年新年のご挨拶

躍動感あふれる午年へ向けて

会長 末次 弘幸

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

本年が皆さまにとりまして、健康で明るい、平穩で希望に満ちた一年でありますよう、お祈り申し上げます。

まず、当会は 1996 年（平成 8）4 月に設立以来、伊丹市文化財の保護・啓発活動を続けてまいりましたが、お陰さまで本年 4 月に 30 年目の春を迎えることになりました。先輩の皆さま方の長年にわたるご尽力に心からお礼を申し上げるとともに、現会員諸氏の地道な活動・ご努力に敬意を表したいと思えます。

さて、2025 年を振り返りますと、史跡ガイドの依頼件数／人数は、2025 年 4 月－12 月の累計で 32 件／527 人と、2024 年 4－12 月実績（31 件／497 人）を件数／人数ともに上回るペースで推移している状況です。

当会企画・運営の 2025 年度市民ガイドは「西国街道を歩く」（3 回シリーズ）をテーマに実施のところ、リピーターの参加者が大半を占め、和気藹々と交流も楽しみながらの歴史散策となりました。万博開催を記念して始まった伊丹市主催の「清酒発祥の地伊丹五感で体感ツアー」では、案内役の委託を受け、伊丹酒の歴史や日本遺産の紹介ならびに酒造り関連施設の案内などを行いました。

国の重要文化財・旧岡田家住宅館内で春・秋に会員の当番制でガイドを行うほか、団体客のガイドも担当していて、市内外からの見学者へ向けて、旧岡田家住宅の歴史的意義や伊丹の江戸積酒造業などについて案内をしております。また、2025 年 3 月にはドイツ・ブレーメン金属加工業協会 39 名、中国・佛山市学生代表团 13 名など、海外からの来館者も案内しました。

こども園の年長組や小学生を対象に伊丹の民話紹介・物づくり体験の支援活動を行っておりますが、最近はおとなを対象とする民話紹介の依頼も多く、対外公演回数は増加傾向にあります。

ボランティア団体として対外活動がメインですが、その基礎体力涵養の意味合いも込めて、会員を対象に伊丹の文化財はじめ近郊の史跡などに関する勉強会や屋外研修を実施し、会員の相互研鑽に努めております。このように会の活動が活発化していることにつきましては、ひとえに会員の皆さま方の多大なるご尽力の賜物と深謝申し上げます。

2026 年の干支「丙午（ひのえ・うま）」は、十干 3 番目の丙と十二支 7 番目の午の組み合わせの年。丙は（「火」の兄）の意味で、燃え盛る太陽のような強いエネルギーを象徴し、また午も「火」の属性を持ち、季節でいえばもっとも陽気が盛んな「真夏」を表します。火と火の重なり合いにより、エネルギーが強く、情熱的で行動力にあふれる年になるものと期待されます。

文化財について会員の相互研鑽を重ね、その成果を市民の皆さまに発信することを通じて顕彰するとともに、文化財の見守り活動などを通じて、その保護と次世代への継承に、微力ながら尽くしていきたいと思えます。世のため人のために、ささやかながら貢献しつつ、組織と会員お一人おひとりの「飛躍」を目指す、「躍動感」にみち「行動力」旺盛な一年にしたいと考えます。皆さま方のご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。（了）



令和8年新年会・新入会員歓迎会開催

日時：令和8年1月13日（火）12時30分～14時、場所：スワンホール中ホール

昨年11月の伊丹市主催「文化財ボランティア養成講座」を受講・修了後、当会へ入会しました会員6名を含む36名の会員が集い、令和8年新年会・新入会員歓迎会を開催しました。

新入会員歓迎と会員相互の一層の親睦を深めることを目的に、お弁当をいただきながらの懇談と親睦を深めるクイズ大会を実施しました。角谷、本郷両幹事発案の「認知症予防クイズ、名前と顔を一致させましょう！」を楽しみながら、普段なかなか話せない会員とも会話が弾み、和気藹々とした雰囲気の中大変有意義な時間を過ごせたと思います。閉会に際し、「現代では、丙午（ひのえうま）は『最強の世代』『変化を恐れずチャンスをつかむ年』とポジティブに捉えられます。当会の活動においても、会員皆様の情熱と行動力で一層発展する機会としたいと思います。」という末次会長の閉会の辞が大変印象的でした。



（編集 記）

第3 | 期新入会員の紹介

令和7年11月の第31回文化財ボランティア養成講座を修了し、新しく会員になられた6名の方々の自己紹介です（敬称略）。みなさん、よろしくお祈りします。

國谷 恵吉（くにや けいきち）

皆様はじめまして。72歳男性、血液型はAB。趣味は音楽、読書、絵画鑑賞など。この地に縁あって40年余り。伊丹の街の住み心地良さは、つれあい共々ほれ込んでおります。

私はどちらかと言えば理系で、歴史などは苦手。しかし、この地の心地良さは、歴史文化がその一端を担っているのではと思い、「西国街道を歩く」に参加させていただきました。

おかげさまで今では、伊丹の街を歩くのが、以前にも増して楽しくなりました。先日は私が拙いガイド役になり、つれあいと西国街道を、少しだけ歩きました。

これといった知識・技術もなく、何もお役に立てませんが、よろしくお祈り致します。

田口 晋（たぐち すすむ）

伊丹市で生まれ、中学・高校ともに伊丹市で育ちました。5年前に定年退職を迎え、無職

となつてからは、「何か新しいことに挑戦したい」と考えていたところ、この会と出会い、ボランティアの皆さまが開催されるイベントに参加するようになりました。

会社員時代は37年間、電気機器メーカーで開発技術者として勤務してきましたが、この会に参加する中で、社会・文化・歴史といった分野に触れ、今までとは全く異なる世界を知ることができ、強い知的好奇心が芽生えました。

今後は、この会で学びを深めながら、少しでも皆さまのお役に立てるよう努めるとともに、自分自身も楽しみながら活動していきたいと考えています。どうぞよろしくお祈りいたします。

西村 留美（にしむら るみ）

10代～出産前までは手話や指字等を学び通訳もしておりました。元々幼い頃から知的

好奇心旺盛で現在もいろんな分野に興味があり、色々資格も取得しました

数年前から、くずし字講座や講演等で歴史関係の学びを深めるようになり、広報で養成講座を見つけて応募したのが入会のきっかけです。

出身は姫路なので赤松氏に興味があります。摂津と播磨の繋がりを見つけたりする事で学びを深め楽しみたいと思います。

現在、足底筋膜炎を患っていたり、持病や諸事情で思ったように活動できるかはわかりませんができる範囲で活動できればと思っています。

色々教えていただいたり、学んだり、楽しみたいと思います。よろしくお願いします。

山下 光茂 (やました みつしげ)

昭和 19 年 9 月 8 日申年乙女座生まれ、血液型 B 型。性格は温厚。趣味は、昔は山歩きを、今は街歩きを、歩きながらスナップ写真を撮るのが好き。

この会に入ったきっかけは、住まいが緑ヶ丘公園に近く、そこから南へ少し行けば伊丹緑道があり、ことば蔵へは約 3km 歩いて行けますし、東へ行けばたんたん小道を経て市役所前の業務スーパーへ約 3.5km 歩いて行きます。ある日、買い物に行く途中スワンホールがあったので立ち寄って、パンフレットの棚をみていたら「伊丹廃寺」という文字に目を魅かれて、よくみると「文化財ボランティア養成講座」があったので応募しました。講座の最後に、「伊丹廃寺」について住まいの近くにありながら知らなかったことが沢山あったのに驚き、伊丹にある史跡についてもっと学びたいと思います。また、「伊丹緑道」「たんたん小道」を歩いていると句碑があり、調べると市内に 60 基あることがわかり、ことば蔵で「文学碑めぐり」という本を借り、「伊丹市埋蔵文化財マップ」を頼りに全部歩いて（一部バス乗車）写真に収めました。とはいえ、1 基だけ所在地が伊丹市民病院前なのですが、

工事中のためバックヤードに保管され、日の目を見るのは 2 年後とのこと。見る事ができず残念でした。けれど、ボランティアを続けながら句碑にあえることを楽しみにしています。

山田 博一 (やまだ ひろいち)

歴史、漫画好きの男です。小学 3 年生で、滋賀県近江今津より、親が自衛官故に伊丹市へ。県立伊丹校の時、伊丹廃寺を横目で見て通学、何これと思い早 60 年余。去年の文化財ボランティア養成講座を受け、長年の疑問が解決。

現在は伊丹商工会議所に属し山田企画事務所。自営業者「漫画広告制作や教室等。jedis.日本漫画家協会所属」です。又、クリエイチ別事業で、地域歴史発信するクリエイター養成の NPO 活動推進中。1999 年まで広告会社萬年社にて TV 番組。関西市民文化塾。世界マンガ博等の企画運営。歴史関連では大阪天満宮天神祭。奈良市建築博トリエンナーレ。藤原京イベント「里中満智子氏の天井の虹作品利用」等。震災前に伊丹市再開発計画に絡み成功事例街歴訪。加えて、TV アップダウンクイズ担当故に、各地の TBS 系 TV の都市も歴訪。

日本の主城郭と伝建地区にと 20 歳頃決めたライフテーマと合致。主な歴史都市を旅行。翻り、その経験にて、伊丹市の稀なる歴史文化の重層性を実感。日本に告知したいと愚考。会員の皆様には、山田の年齢。体力「聴覚障害等」等、ご迷惑をお掛けします。文化財ボランティア活動をご指導ください。

吉田 裕之 (よしだ ひろゆき)

はじめまして。今回から参加させていただく吉田と申します。

30 年ほど前に伊丹へ引っ越してきましたが、その後は転勤が続き、数年前にようやく伊丹に戻って落ち着くことができました。

以前から、時間に余裕ができたなら地元・伊丹の歴史や文化財を学びたいと考えており、

文化財ボランティア養成講座の存在も知っていました。昨年末に退職し、受講の機会を得たのですが、数年前に確認した際は1~2月の実施だったため、退職後に参加できると思っていました。ところが、今年度は11月開催と知り、急いで申し込みました。あやうく1年間待ちぼうけになるところでしたが、なんとか

無事に養成講座を修了し、入会の条件を満たすことができました。とはいえ、伊丹の歴史や文化財に触れ始めたばかりで、まだまだ学ぶことが多いと感じています。ガイドとして人前に立てるよう、知識を深めていきたいと思いますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

史跡ガイドレポート① 令和7年10月25日

令和7年度いたみ歴史散歩

西国街道を歩く第2回「千僧村から大鹿村の歴史を辿る」

10月25日(土) 第二回市民ガイドを開催しました。

前日より天候が不安定で、一時パラッと降ったのでどうなるかと思っていましたが、雨は降らずに順調に実施することができました。前日体調不良で2名のキャンセルがあり、尼崎からの参加が1名、第1回に続いて2名の方が参加され、計14名が参加されました。会員7名によるガイドでご案内しました。

今回のガイドは、第1回目「寺本村から昆陽村の歴史を辿る」の続きで、伊丹市庁舎広場「ひろまる」からのスタートです。

江戸時代の伊丹は小さな村の集まりであり、村によっては一つの藩ではなく4つの藩の支配下に置かれていたこと、また、西国街道は奈良時代の山陽道が起源で、都と太宰府を結ぶ山陽道は主要な道のひとつでありました。しかし江戸時代になると江戸から離れており、脇街道と格下げされましたが、参勤交代制の確立とともに重要度が高まっていったと説明がありました。京都東寺口から西宮神社まで52kmあり、山崎から西宮の間には昆陽を含め6つの宿場がありました。西国大名の参勤交代に利用され、松尾芭蕉や伊能忠敬らもこの道を通ったと紹介されました。

千僧天神社

行基が池や田畑の開拓達成の祈願をされた神社で、丁度、氏子の方々が秋祭りの準備をされており、山車収納庫の扉が開いていて、地車(だんじり)が見えました。参加者の一人が、この西国街道は毎日散歩している道で、以前は松並木がずっと並んでいたのに、今は一本が残るくらいになってしまったと言われていました。



千僧天神社

安楽院

奈良時代の創建で、七堂伽藍の大寺院であったと伝わります。行基が昆陽池築造の時に千人の僧を招いて、大池成就の大法会を営んだことにより、寺号を「願成就寺」、地名を千僧と称したと説明。16カ院の坊舎があったが、荒木村重と織田信長の戦火によって焼失し、安楽院だけが残ったのを聞くと、信長の戦火が有岡城のみならず、近隣の村々まで焼き尽くされたことがわかりました。

大鹿村

西国街道沿いの村、村の西部には有馬道が通っており、二つの街道が大鹿村で交差しています。

「大鹿」の名前の由来は「平安時代の武将坂上田村麻呂がこの地で鹿狩りを行い、大きな鹿をしとめた」から後世、村の地名になったと聞き、歴史上の人物と伊丹のつながりが感じられました。偶然にも大鹿会館が開いており、ここでも秋祭りの準備をされていたようです。

妙宣寺

大鹿村では大覚大僧正が早魃で苦しむ村民に請われて、雨乞いの祈禱を行い、村民の願いに応えたので、真言宗から法華宗に改宗したと言われていません。境内には入りませんでした。門構えが立派で重厚な感じのお寺でした。このような立派な寺観を整えるようになったのは、当時の大鹿村の酒造業が盛んだったことが無関係ではないようです。門前にある「経塚」と「竹塚」の説明がありました。



西皇大神社

隣接する妙宣寺が法華宗に改宗したとき、天照大神を祭神としてお祀りしたのが始まりと紹介。境内には「茶わん樋」と言われる穴が開いた石板があり、江戸時代に村同士の水争いが絶えず、その和解案として作られたことに、皆興味を抱いて、覗き込むように見っていました。



茶わん樋

伝和泉式部の墓

西国街道の伊丹坂の上であり、美しい形の五輪塔ですが、完全な形ではありません。後世の人が式部供養のために建てたと思われ、伊丹と式部との関係に思いを馳せていたようでした。

辻の碑

西国街道と多田街道とが交わる所に建てられています。「摂津名所図会」には東寺から十里、関戸（大山崎関戸院）より七里、須磨より七里、天王（三田市母子天王嶺）より七里、大小路（和泉との国境）より七里とあり、摂津国の中央であることを標示するために建てられたことがわかり、参加者は皆関心を示されました。

最後まで雨も降らず、また汗ばむこともなく、無事辻の碑まで到着して参加者の皆さんも元気に終えることができました。丁度、秋祭りの時期で、幟を立てる準備をしている人達を見かけ、季節の移り変わりを感じました。途中トイレの箇所が少ないのが少し残念でした。（徳本 記）

史跡ガイドレポート② 令和7年11月16日

短時間でののご案内でも

秋晴れの日曜日、さわやかな気分での史跡ガイドです。通常、ガイド依頼は2時間程度のご要望が多いのですが、この日は1時間での依頼がたまたま2件重なりました。事前に窓口の方々と相談し、詰め込みすぎず、伊丹の良さを感じてもらえる行程を準備し、お迎えしました。

1件目はご退職された小中高の先生方の集まりです。この日の行事に備え幹事のおひとりが大変わかりやすいしおりも作っておられ、とても楽しみにされているご様子。有岡城跡から本泉寺・大溝筋筋経由の伊丹ミュージアムまで歩行距離を短くしたコースを設定しました。まずカリヨン塔前の藤棚下で会長からご挨拶。「私の両親も教師でした」で距離が近づき「ちょっとガイドが立て込んでおりました、私はこれでエスケープいたします」でどっと笑い声が。皆が一つになったような和やかなムードが広がり、この日の天候に負けないさわやかな笑顔でガイドはスタートしました。まず、戦国期の伊丹・荒木村



重、有岡城の特徴などについて説明。引き続き有岡城跡に移動し現物の前で石垣について説明しました。中でも、信長が刀の先に饅頭を刺し村重に差し出したエピソードでは“おっ”という声が聞こえました。次の本泉寺では寺の概要と楠木正成の墓所について説明し、それから大溝跡へ移動。村重時代の堀と江戸時代の酒造り排水溝が重なった遺構であり、伊丹が城下町から酒造りの町へと変遷した象徴的な場所であることを紹介しました。最後のスポット伊丹ミュージアムへ。庭園、台柿、旧石橋家住宅について説明し、旧岡田家住宅では、歴史、変遷、建物の概要や酒造り工程などを説明しました。

2件目は、大阪の会社のOB会で、懇親会の一環として歴史散策をされているようです。旧岡田家住宅は訪問済みで猪名野神社訪問希望、長寿蔵で昼食予約という先方からの事前情報をもとに、有岡城跡 から始め、歩きながら本泉寺、大溝跡、三軒寺について紹介、猪名野神社までという行程を準備しました。実際のガイドでは、伊丹の歴史を知ってもらう上で必要な事柄として、有岡城跡では城の特徴、村重の人物像など、大溝跡では城下町と酒造りの複合遺跡になっていること、猪名野神社では社殿や砦跡、鬼貫句碑など文化と歴史が蓄積された場所であることを説明しました。一方、本泉寺では楠木正成墓所、三軒寺では大蓮寺の伊丹氏供養塔見学と、通常より絞った説明としました。結果として、予定時間通りにガイドを終了でき、参加者の方々から社殿についての質問が出るなど熱心にお聞きいただけ、伊丹の歴史についてご理解いただけたと思います。

今回の2件のガイドはそれぞれ1時間の設定でしたが、事前打ち合わせて伺った参加者の状況やご要望に添った内容を用意することができたのではと思います。皆様が無理なく移動しながら非常に熱心に説明を聞いて下さり、楽しいガイドでした。終了後、「自分たちだけで歩くだけでなく、ボランティアガイドからのお話も聞けて良かったと満足して解散しました」との御礼の言葉をいただきました。短い時間でも、参加者の方々のご協力のもとに伊丹の魅力を伝えることができたなら、うれしい限りです。これからも、多くの方々に気軽にご依頼いただき、伊丹の魅力を伝えていきたいですね。(神立、岩崎 記)

史跡ガイドレポート③ 令和7年11月20日午前 伊丹まち歩きと「酒と文化の薫るまち」

11月20日、兵庫の歴史探訪クラブOB会の24名をご案内しました。依頼団体の世話役が《伊丹まち歩きと「酒と文化の薫るまち」》という名称を付した散策会でした。

当日は天候に恵まれ、秋晴れの澄んだ空と紅葉が美しい景色の中、挨拶とガイド担当者を紹介の後、午前10時にカリヨン塔前で見学を開始しました。

最初にカリヨン塔前で有岡城跡の惣構の範囲や城の成り立ち、荒木村重の史跡としての位置付けについて説明、その後、石垣遺構へ移動して現存する遺構の特徴や歴史的意義について案内しました。参加者の皆さまには、戦国期の伊丹の姿をより身近に感じていただけたようで、熱心に耳を傾けていただきました。

有岡城跡の見学後、次に荒村寺へ向かいました。荒村寺では、寺の沿革について説明し、酒造家との関係や荒木村重との関連、鬼貫句碑を説明しました。

3番目の見学スポットは先方の希望により墨染寺でした(右写真)。多人数のため境内には入らず、寺の歴史と伊丹の酒造家・上島家との深い関わりについ



て説明。写真パネルを見せながら、境内にある上島鬼貫の句碑、鬼貫親子の墓、谷口与鹿の墓、当地に伝わる女郎塚、さらに荒木村重にまつわる村重供養塔、それぞれの由来や伝承、歴史的背景について案内し、最後に上臈塚砦についても敷衍しました。

次に猪名野神社では由緒や歴史を説明するとともに、境内の見どころを順に案内しました。岸の砦跡や土塁・堀跡の構造について案内し、戦国期の防御施設としての意味や位置関係を確認しました。境内では、大灯籠や注連柱、本殿・幣殿の建築様式や構造についても説明し、さらに上島鬼貫句碑の前で、その文学的な功績と地域文化との関わりについて紹介しました。

最後の見学スポットは旧岡田家住宅。先ず建物の外で、江戸時代町家の外観の特徴を説明し、中に入り、建物の概要や伊丹の酒造業の歴史、特に「伊丹酒造り」と江戸積酒造業について紹介しました。酒蔵建築と伊丹酒造業の歴史的な結びつきを理解していただきました。

午前 11 時 50 分に全行程を無事終了しました。今回の歴史探訪を通じて、参加者の皆さまには伊丹のまちの歴史と文化、酒造文化とのつながりを身近に感じて、各所での説明や現地での発見を通じて、伊丹の魅力が心に刻まれたことと思います。

歩きながら、街並みが静かで落ち着いているという方がいました。知らなかった伊丹のことが分かって良かったという人もいました。本日はとても良い時間を過ごすことができ、楽しい 1 日でした。(松永 記)

史跡ガイドレポート④ 令和7年11月20日午後

「有岡城跡」を起点とした近隣の史跡巡り

今回の依頼者は和歌山県紀の川市の「史談会」という名称の団体で、50年以上の歴史を有し、世話役M氏によれば、以前は論文を書くような会員もいたが、現在は歴史散策を楽しむ団体となっているとのことでした。参加者の中には高齢者もおられ、各ガイド先での配慮の必要性を強く感じてのスタートとなる。観光バスを使つての日帰り旅行で、午前中は豊中市で古民家を見学したとのこと。参加者のうちお一人はバスで待っているとのことでした。

11月20日午後12時40分頃、待ち合わせ場所に指定された長寿蔵出口辺りで待機。それらしき人たちが昼食を終え、出口から出てきて、そのまま、前のショップに入っていました。少しして、世話役の方が来られ、こちらで改めてご挨拶。M氏がショップ内にいる参加者を招集し、最初のガイド先である有岡城跡に向かいました。

天候も、当初予定されていたより寒さも和らぎ、散策日和でした。途中、産業道路の信号待ちで、参加者の一人に声を掛けたところ、その方も地元でガイドしているとのこと。その方が、ガイドの後に「ありがとう」と言ってくれるとうれしいね、との発言あり。こちらで一緒です、と返答し、初対面ながら、一挙に親しくなった感じ。

「有岡城跡」では、石垣遺構前に集合していただき、先ずは当会会長より、「ようこそ、伊丹へ」から始まるご挨拶をして、2人のガイドの紹介を行いました。

早速、筆者担当の有岡城の歴史、3つにまとめて特徴等ガイドし、石垣遺構を実際に触って体感していただきました。また、城主荒木村重については、近々NHKBSにて放映されることを追加で伝えました。ガイド中に、先ほど立ち話をした参加者と目が合い、笑顔を返していただきました。ガイド途中の参加者との、ちょっとしたコミュニケーションの大事さを感じました。

続いて、荒村寺へ移動。ガイド担当会員からは、A3型の説明パネルを使用し、参加者に見やす

く、視覚的に訴えたガイドとなりました。ただ、今回は参加者が多く、少し離れた場所から聴く人もいたのが、少し残念な点でした。

本泉寺でのガイドでは、一般的に有名な楠木正成墓所を中心に説明。ガイドに沿って、墓の側面を確認する参加者もいました。

大溝跡では、会長より「城下町から酒造りの町へ」を感じる大事な遺構と説明。

三軒寺前広場では、従来からの工事が継続中で、止む無く、大蓮寺前にてガイド。大蓮寺に入り伊丹氏供養塔を見学しました。

猪名野神社に向かう途中の、図書館ことば蔵トイレ休憩中に、一人の女性から「私、後期高齢者、頑張ってるでしょう。」と声を掛けられ、「すごいですね。頑張ってますね。」と答えたところ、「私と一緒に人は、92よ。」とのこと。思わず、その方に頭を下げました。

最後に、世話役の方から、当会会長あてにお礼メールが届きましたので、全文をご紹介します、今回のガイド報告とさせていただきます。(山下 記)

【世話役の方からのメール】

11月20日の研修楽しく出来ました。お陰様で参加者の皆様にも好評でした。有岡城跡だけでなく関連施設や伊丹市内の文化財を案内頂き有難う御座いました。各施設での説明や資料の提示等、紀の川市の文化財ボランティアとしてもおおいに参考になりました。案内して頂きました方以外にもボランティアの方を見かけました。平日にもかかわらず、各施設で対応できる伊丹市のボランティア組織に感服致しました。紀の川市も見習い、追い付く様頑張ります。ご案内頂きました2名の方にも会長様より「有難う御座いました」とお言付けをお願い申し上げます。 「伊丹市文化財ボランティアの会」の益々のご活躍をお祈り申し上げます。 楽しい研修、本当に有難う御座いました。



史跡ガイドレポート⑤ 令和7年11月22日

清酒発祥の地・伊丹のルーツである伊丹郷町を巡る

スワンホール主催の歴史探索ウォーキングツアーは、昨年(2024年)12月の「旧西国街道沿い昆陽寺等の史跡を巡るツアー」に続く2回目の開催です。

今回は、伊丹が「清酒発祥の地」といわれるルーツ(史跡等)を巡るツアーとして開催されました。

JR伊丹駅前のカリヨン広場前を13時にスタートし、有岡城、大溝跡、小西酒造(長寿蔵)、老松酒造、猪名野神社、最後に国の重要文化財、旧岡田家住宅・酒蔵のある伊丹ミュージアムを紹介しました。

参加者は7名。普段の史跡ガイドに比べて若い年代の方が多という印象。移動途中には当ツアーの参加動機をお聞きしました。伊丹が清酒発祥の地という事に興味が湧き参加したという方、JR伊丹駅の観光ギャラリーに勤めているのに伊丹の歴史をあまり知らないで参加したという方、「伊丹が清酒発祥の地とはどういう事か、呑兵衛として知りたくて参加した。」という富山から単身赴任で伊丹にお住いの方など、「清酒発祥の地・伊丹」は酒好き、歴史好きには魅力的な史跡ガイドのテーマだと今更ながらに実感しました。

さて、ガイドは有岡城からスタート、大溝跡での「伊丹郷町」の説明には、毎日のよう

に通る道沿いに伊丹の歴史を紹介した掲示物があることに驚かれる参加者も。長寿蔵前では、小西酒造が伊丹郷町の発展にどのように関わってきたかを説明。その中で、伊丹小学校の前身の設立に小西酒造が貢献していたことを紹介すると、「だから、伊丹小学校は格（伝統）が違うのかしら？」と女性参加者から声があがったのには驚きました。猪名野神社では、江戸時代には伊丹郷町の氏神として栄えた神社であると紹介、当神社が有岡城惣構の北の端に位置すること、神社境内東縁の断崖が惣構の東の際（きわ）にあたると説明すると、参加者一同、際を覗き込みながらその高低差に驚きの声。最後に、江戸時代から昭和まで350年にわたって酒造家として栄えた旧岡田家住宅・酒蔵の紹介、幕末の日本家屋の構造を持つ旧石橋家住宅などを紹介して、予定の15時にツアーを終えることが出来ました。後ほど、参加者のお一人から「昨日はほんとに楽しかったです！歴史を探索するって面白いです😊案内して下さったボランティアガイドの皆様の知識も凄いいし、地元愛も伝わってきました！また参加してみたいです。」と感謝と励ましのメールをいただき、ガイドを担当した会員一同たいへん喜んでいきます。(吉岡 記)

史跡ガイドレポート⑥ 令和7年11月23日

伊丹市の歴史遺産を学ぶ（県立伊丹高校）

9月25日（木）県立伊丹高校 GLiS 類型(1-1)を対象に、「地域にある課題を見つけ、その解決法を考える」という探求型の授業の一環として、当会会長が「ボランティア団体の地域社会貢献と解決したい課題」というテーマで生徒40人（+教諭3人）を前に50分の講義を行いました（火曜会通信107号掲載済）。前回の講義の流れを汲み、早速、「伊丹市文化財ボランティアの会」地域貢献の一環である文化財・史跡巡りへの申し込みがあったもの。

3連休の中日にも関わらず、自主的に参加申し込みをした6人の生徒（+教諭3人）で実施しました。見学コースについては、同校より有岡城跡をスタートして伊丹廃寺跡で終わるようにして欲しいとの要望があり、伊丹市内の3つの国指定の文化財・史跡を含めて設定し、「有岡城跡」と学校のすぐそばに位置する「伊丹廃寺跡」に重点を置いた見学会となった。

当日、ガイド担当会員は9時30分には全員揃い、マイクのセット等ガイド体制をとって生徒たちの到着を待ちました。この日は、お天気も良く絶好の散策日和となった。すぐさま、担当のI教諭が来られスタッフ全員挨拶。開始予定の9時50分迄には全員揃い、担当のI教諭より我々の紹介を含めて、本日の概要について説明あり。続いて、当会会長からも、本日のコースとその主旨についての説明、挨拶がありました。

早速、集合地カリオン塔前にて、ガイド担当会員から「有岡城跡」についてのガイドが始まり、こちらの手作り説明ツールを生徒たちは食い入るように見ていました。すぐさま、北西部の石垣跡の方に移動し、実物を見ながらの解説に皆集中していたようです。実際に、石垣を自分の手で触って確認する生徒もいました。移動中、内堀の説明に際し、教諭の一人から早速「実際には、水が張っていたのか」との質問があり、即座に会長より適正な回答が返されていました。



その後、旧岡田家住宅・石橋住宅の概要説明をし、予定表にはない、伊丹ミュージアムの常設展示会場に移動し、伊丹廃寺発掘の契機となった「水煙」について会長よりガイドをしました。この時、教諭の一人から、「ここは、無料で拝観できるのか」と質問あり、「特別展」以外無料です、と回答。

猪名野神社に移動し、由緒・石燈籠・拝殿・幣殿・本殿・鬼貫句碑・岸の砦跡を案内し、伊丹緑道を「白洲屋敷跡」に向かう。

「白洲屋敷跡」ガイド冒頭、「白洲次郎知ってる人」と投げかけるも反応なし。白洲家と伊丹高校の関係も併せてガイドしました。

辻の碑・教善寺と続きましたが、ガイド担当会員の教善寺での来迎印（印相）の説明とジェスチャーに興味を示し、実際に自分でやってみる生徒もいました。

いよいよ最終の臂岡天満宮・伊丹廃寺跡に向かいました。途中、いつもの通学経路を通っている等の話題も出ました。臂岡天満宮では、その歴史、菅原道真との関係と併せて、伊丹廃寺の建物礎石を紹介。旧石橋家住宅・教善寺に続いて、ここでも担当のⅠ教諭が礎石に反応し、クイズ方式で生徒に市内の礎石巡りの提案をしたいとの発言あり。位置を示した地図の存在を質問されましたが、その時点では回答できず。

最後のポイント（本日のメインポイント）では、金堂の基壇の上に上がり、その歴史、発掘の経緯等ガイドしました。終了後、会長から、11月29日（土）史跡清掃作業と12月20日（土）第3回市民ガイドの案内をしました。それを受けて担当の教諭から本日の感想文の提出、また今後の取り組みについて、場合によっては連携したガイドの実施、勉強会への参加等の呼びかけがありました。会員全員「前向きに検討する」との意思表示をし、全員笑顔でお別れをしました。後の反省会で、聴いている生徒たちの目の輝きが素晴らしい等の感想がありました。また、帰宅後、会長あてに早速担当のⅠ教諭よりお礼のメールと校内のブログに掲載した由、連絡がありましたので、その一部を紹介して今回の報告とさせていただきます。

「生徒たちは、それぞれに興味深く史跡を見学し、ガイドの方々のお話に聞き入っていたようでした。ここでしか知ることができないような詳しいお話を聞かせていただき、引率教員の我々も大変勉強になりました。また県立伊丹高校との関連もお話の中に組み込んでいただき、嬉しく思いました。」（山下 記）



史跡ガイドレポート⑦ 令和7年11月27日

有岡城跡、猪名野神社、旧岡田家住宅・酒蔵を巡る

11月27日、紅葉が鮮やかに色づく季節に家電メーカーOB会24名を案内。見学コースは依頼者の要望により有岡城跡→猪名野神社→岡田家住宅として、午前10時にカリヨンプラザ前に集合し、案内がスタートしました。当日は澄んだ秋空のもと、参加者は有岡城の内堀をはじめ、石垣に残る城郭の痕跡を確かめながら、往時の壮大な城構えに思いを馳せました。黒田官兵衛の幽閉地、内堀の場所について質問がありました。酒蔵通りを歩きながら大溝跡において、有岡城期の堀跡と江戸時代の清酒製造工程の洗米等で使用する水の排水路が重なり合って検出されたことにつき説明しました。

特に酒造と深く結びついた伊丹の歴史を象徴するエリアでは、酒造りと城下町の発展の

関係についてより詳しい説明をし、参加者からも熱心な質問が寄せられました。

続いて訪れた猪名野神社では、伊丹郷町の鎮守社としての長い歴史に触れ、境内の佇まいと晩秋の景色が相まって、厳かな雰囲気が漂いました。本殿、玉垣は近衛基熙が再建し、近衛家との関係の深い神社であります。参加者より岸の砦の外堀について質問がありました。剣菱の酒蔵があったことは蔵の前を歩いて最後に旧岡田家住宅を案内し、江戸期町家の特徴や、清酒発祥の地、江戸積酒造業、伊丹酒の歴史等、伊丹酒の繁栄を支えた商家の生活文化に触れ、酒と城下町、そして歴史遺構が重なり合う伊丹ならではの魅力に触れられる内容となり、参加者からは「街並みが綺麗である」「酒との関係が非常にある地域である。」「伊丹の歴史を立体的に実感できた」との声も聞かれました。

伊丹ならではの「酒と城」の物語を織り込みながらご案内しました。今日も楽しい1日でした。今後も地域の歴史と文化を伝えるよう心掛けたいと思いました。(松永 記)



史跡ガイドレポート⑧ 令和7年11月29日

「清酒発祥の地伊丹」五感で体感ツアー第5回

11月29日(土)、伊丹市空港・にぎわい課主催『ひょうごフィールドパビリオン「清酒発祥の地伊丹」五感で体感ツアー』の第5回目が開催された。2025年度最後のツアーである。

本日のガイド担当会員はお城博士。参加者は11名。日本酒関連イベントをネット検索して申し込んだという大阪の男性二人連れ、お酒が何より好きだという若い女性の二人連れ、若いご夫妻、市民ガイドリピーターの伊丹の女性などなど、30代から70代と幅広い年齢層の酒好きの人たちの集まりだった。

所定の午前10時30分より少し早めに全員揃い、物産ギャラリーの前で、本日の見学コースが有岡城跡、大溝跡、長寿蔵、老松酒造、岡田家住宅、長寿蔵ミュージアムであると説明後に、スタートした。

ガイドが設定した今回のテーマは「清酒発祥の地伊丹の成り立ち」で、伊丹が清酒発祥の地に至った歴史的経緯につながる内容を意識して、関連文化財の紹介、江戸時代の清酒造りの紹介などに重点を置いた案内だった。

最初のガイドスポットは有岡城跡。カリヨン塔でお城の概要につき説明して、大溝跡へ向かう。有岡城期の堀跡と江戸時代の酒造りに使用された排水溝が重なり合って出土した場所で、有岡城から伊丹郷町へ引き継がれた酒造りと在郷町の形成段階について説明した。

長寿蔵の前では、小西酒造の歴史についての紹介があったが、酒造りだけではなく、同社が学校設立を行うなど文化面でも地域貢献を行ったことにも触れた。老松酒造の前では、老松酒造の歴史、御酒屋・御免酒等の説明をして、旧岡田家住宅・酒蔵に移動した。



まずは旧岡田家住宅と旧石橋家住宅の外観を眺めながら、江戸時代の町家の特徴、岡田家館内では、下店、店の間、中の間、次の間、奥の間の順に見学し、井戸の前では伊丹の水の特徴、窯場では竈について、さらに酒造道具についても説明を行った。

旧岡田家酒蔵では、酒槽の構造などについて案内した後、スクリーンに映し出される日本遺産「伊丹諸白」と「灘の生一本」に関するビデオを視聴した。さらに日本遺産に関する説明が続いた。長寿蔵2階に展示の酒造道具を細かく説明して、午後12時15分ごろ「五感で体感ツアー」は、参加者全員の拍手を浴びて、終了した。

参加者との交流を図るため、長寿蔵レストランにおける昼食会にも参加した。「料理と日本酒のマリアージュ」と称して、日本酒5種類（白雪伊丹諸白大吟醸・白雪伊丹諸白本醸造・老松伊丹諸白本醸造・小西大吟醸ひやしぼり・白雪伊丹諸白樽酒）と日本酒に合う料理がワンプレートにのせられて供された。参加者にそっと伺うと「お酒は小さなグラスに半分程度で、料理も大皿に申し訳なさそうに盛られている。3,000円は少し割高かな」という感想が返ってきた。Y氏の細部にわたる懇切丁寧なガイドに耳を傾けながらの史跡めぐりに加えて、昼食会での酒を嗜むのがお好きな参加者各位との交流も十分に楽しめるツアーだった。2025年度のツアーは今回をもって終了したが、主催者によれば兵庫県からの意向もあり、来年度もフィールドパビリオン事業が継続されるとのことである。伊丹酒造りの歴史と伊丹酒を引き続き満喫できそうで、今から楽しみである。（末次 記）



史跡ガイドレポート⑨ 令和7年12月13日

『寒さに負けず伊丹を歩こう』 有岡城から伊丹ミュージアム

今日の史跡ガイドは、阪神シニアカレッジ・歴史探訪クラブ 0B 会の方々。市外在住の方が殆どで、伊丹市初訪問の方が約半数おられました。

JR 伊丹駅前のカリヨン塔前に集合、参加者 23 名を確認の上開始となりました。スタート時、ガイドリーダーから、コース説明・ガイド中の注意事項・トイレの案内・当ボランティア団体の説明とガイドブックの紹介等あり、資料希望があったとのことと文化財マップを配布して、参加者の了解のもと 10 分早いスタートとなりました。

エスカレーターでおりて、有岡城跡へ。階段を上り中央へ誘導しガイド開始です。フリップボードを利用した説明で、興味をひき参加者のところをつかんでいたように思いました。丁寧な説明で少し長くなり、皆さんもぞもぞした様子が見られましたが、石垣跡に移動した途端、さらに熱心に聞いていらしたのが印象的でした。参加者の希望があり石垣跡前で写真撮影をしました。途中、飛行機音で通常のマイク音量では聞こえにくくなったところがあり注意が必要と感じました。



階段をおりて、南の荒村寺へ。荒村寺前は道幅が狭く危険なため、道路向かいからの説明となりました。道路を挟んでのガイドのため、荒村寺内がわかるように写真をもとに説明され、皆さん写真をくいついて見ていらっしゃいました。歩道での説明のため、他の歩

行者の妨げにならないよう注意が必要でした。

西に向い正面から本泉寺へ。寒さを考え日の当たる場所へ誘導。寺の概要、鹿島家一族の墓・楠公一族の墓（顕彰碑）の説明をさせてもらい、先輩方に支えられながらも、私のカミカミ初ガイドが終了しました。

本泉寺を北から出て西へ向い大溝跡へ。大人数のため、なるべく歩道利用を促しての移動となりました。江戸時代の石組排水路と有岡城期の堀跡が重なり合う遺構の説明と郷町の説明を皆さんがイメージできるように丁寧にわかりやすくされており、熱心に聞かれていたのが印象的でした。ニトリ前での郷町説明時、通りすがりの人が足を止めてガイドを聞かれていて、なんだか嬉しかったです。

さらに西へ向かい三軒寺広場へ。足の悪い方のお疲れが見え始めました。数名の方をガイドが聞こえるベンチに誘導しました。法巖寺の大クス、正善寺の薬医門、大蓮寺の供養塔等の説明があり、特に正善寺の薬医門の墓股の表面の彫刻を注意深く観察されていたように感じました。

猪名野神社をめざして北へ。途中、開始時説明のトイレに誘導しました。少し時間が長かったように思います。神社前の由緒書きの前からガイドが始まり、拝殿前へ。注連柱等の説明後、正面右側から移動し本殿・幣殿・拝殿の建物説明ののち、岸の砦の土塁跡の説明がありました。拝殿の後ろを通り大灯籠へ。修繕工事中であったが建物の覆いが外れていたので見物しやすかったです。



最後、南へ移動し伊丹ミュージアムへ。旧岡田家住宅の下店で建物説明があり、洗い場・釜屋に移動し、酒蔵へ。酒蔵では、椅子に座っていただき、説明を聞いていただきました。長いガイド時間でお疲れの方が多々見られましたが、ほっと一息つけた様子でした。旧石橋家住宅の説明、庭園の柿の木の紹介等を興味深く聞かれていました。



移動途中には参加者から、我々のユニホームのマークの意味、清酒に欠かせない水の入手場所などの質問がありました。ガイドの際のフリップボードを用いた紹介はわかりやすく、興味を引くアイテムですが、大人数での使用時は参加者が見やすいようにする配慮や説明中可能であれば少し移動も加えた方が聞きやすいと実感しました。高齢者のグループの場合は、参加者の希望があれば、ガイド時間内に5～10分程度の休憩時間があっても良いのではないかと感じました。（梶尾 記）

史跡ガイドレポート⑩ 令和7年12月20日

令和7年度いたみ歴史散歩

西国街道を歩く第3回「辻村から北村へ」西国街道周辺北伊丹地区を歩く

12月20日(土)、ぽかぽか陽気に恵まれた晴天の中、辻の碑に男性3名、女性7名の参加者10名が9時30分の案内開始15分前に集合。「いざ、出陣」と、案内を開始しました。

会長は冒頭で「この種のイベントは天候に恵まれれば90%成功、あとの10%は参加者皆さまのご協力です。案内担当者も100%力を出し切ってご説明をさせていただくので、満足度200%の史跡めぐりとな

るようにご協力をお願いします。」と挨拶されました。(右写真)

そのあと、西国街道は京都東寺口から西宮神社までの交通路で、東寺の門前を起点とし、大阪府下を経て下河原で伊丹市域に入るが、今回は西国街道だけでは文化財の数も少ないので、多田街道に沿って、北村地区の水路とそれに面した伝統的建築物や辻の碑・教善寺といった歴史的景観資源などをみてもらいたいと、コースを選択したとの話がありました。

いよいよ、辻の碑から本番の始まりです。この碑は、辻村が摂津国の中央(中心)に位置し、摂津のへそであることを標示するために建てられました。1798年(寛政10)刊行の『摂津名所図会』にも記されています。でも、誰が、いつ、何のために建てたかは、今のところはっきりとはわかりません。(右写真)

しばらく歩いていくと、「北村の旧地名」の表示板が出てきました。それを見ながら、消えてしまった地名などの話に花が咲き、参加者も担当者も立ち去りがたい気分になったものです。

次は、北村に唯一ある都市景観形成建築物の指定第2号坂上邸に。現在、15件指定されているうちの1件です。母屋は江戸時代(享保期)に建てられたもので、多田街道に面しており、歴史的景観をしのばせる要素にもなっています。

教善寺の門前からの説明です。この寺の本尊は阿弥陀如来立像で、過去帳によりますと1579年(天正7)織田信長の軍勢により霊蓮寺が焼かれたとき、その本尊を教善寺に移したと記されています。霊蓮寺は龍(良)蓮寺とも書き、伊丹廃寺付近の地名になっていたことから、この本尊は伊丹廃寺の旧仏である可能性も考えられます。(右写真) 本堂前に移動し、伊丹廃寺跡から出土の礎石を見ました。なぜここにこの思いを持ちながら…。

北村では、明治時代はブドウの苗木栽培で全国にその名を知られたと言われていますが、今は「北村」の地名は残っていません。現在、北村センターの前庭にブドウの木が植えられ、「キタムラブドウ」と呼ばれています。北村地区の歴史を後世に伝えるシンボル・ツリーとして、大切に育てられています。いくつかブドウの実がなっていました。

気になるブドウの実を後にして、昨年10月開店のスーパーOK北伊丹店で15分間のトイレ休憩をとりました。その際、スーパー隣の駄六川のはとりで、トイレ利用のない参加者と伊丹の酒造りについて話をしていたところ休憩から戻ってきた参加者も話の輪に加わり、有岡城跡が半分削られた経緯などにつき質問を受け、懇切丁寧に説明をしました。気が付けばほぼ全員が参加する対話集会の場となっていたのです。15分が経過し、「出発します」と言うと、「こういう時間が楽しい」と女性の一人が声を発しました。案内役としては、大いに勇気づけられる言葉でした。

このコースで二つある坂の一つ目です。細い間道を登ったら、高台の畑地の片隅に小じんまりした墓石が立っています。表に「自然居士之墓」とあり、『摂津名所図会』には、荒木村重の息子自然の墓とあります。また、別の『信長公記』巻12には荒木久左衛門(池田知正)のむすこ自念と記されています。真相は藪の中です。(右写真)

次は猪名川右岸の伊丹段丘上にある臂岡天満宮に。もう一つのきつい坂に男性参加者は休み休みに登って行きました。この天満宮の祭神は菅原道真です。道真は醍醐天皇に左遷され、大宰府へ向かう途中にここに立ち寄り臂を枕に休息されたので、以後、この岡を臂岡と呼ぶようになりました。段々と暖かくなり、着ている物を1枚脱ぎたくなくなりました。伊丹廃寺の礎石が当宮境内にも5基ありましたが、その理由はよくわかり



ません。なぜここにあるのでしょうか。

最後は伊丹廃寺跡に。緑ヶ丘にある白鳳時代の寺院跡です。1958年(昭和33)から1965年(昭和40)まで発掘調査がおこなわれ、奈良の法隆寺と同じ伽藍配置をもつことがわかりました。1966年(昭和41)には国の史跡に指定され、特に金堂跡、塔跡のある中心部は、基壇等が復元整備され、史跡公園として公開されています。では、散逸した礎石はどこに行ったのでしょうか。発掘調査の結果、抜き取り穴だけが確認され、礎石はすべて抜き取られている現状があります。臂岡天満宮や教善寺などの寺社の所蔵になっているほか、個人住宅の庭石などにも…、あなたのそば近くにもあるのかもしれない。(右写真)



会長は最後に「ご参加の皆さまのご協力のおかげで時間通りに楽しく歩くことができました。最初に申し上げた通り、満足度200%の楽しい歴史散策となりました。」と謝意を述べられました。今回の市民ガイド参加者は、シリーズにしたことにより集客に大変効果がありました。3回とも参加-2名、1・3回目-2名、2・3回目-5名、3回目-1名という結果になりました。(松山 記)

第31回文化財ボランティア養成講座 令和7年11月22日

養成講座の締め括りは「当会会員ガイドによる現地史跡巡り」

秋晴れの穏やかな青空が広がっているここ伊丹廃寺跡。

「第31回文化財ボランティア養成講座4」が実施されました。三回の講座を経ての「現地史跡巡り」です。集合場所の伊丹廃寺跡に参加者8名、市職員2名、会員(会長を含む)3名で始まりました。

最初は伊丹廃寺跡です。伽藍配置は法隆寺式であり、階段・基壇・礎石など丁寧な説明と熱心な学習態度で、時間を気にしながらも進んでいきました。

臂岡天満宮では菅原道真の半生を聞き、命名の由来、牛が祀られている意味などを聞きました。そして境内にある5つの礎石を探そうということで巡りました。礎石には柱の跡がはっきり見えるものもあり、納得できるものでした。

次に訪問したのは久遠山教善寺。ご住職の計らいで本堂に上げて頂き、法話を伺いました。お寺の歴史、阿弥陀如来立像の由来、礎石の存在など厳粛な雰囲気の中、身の引き締まる思いでした。

「辻の碑」の所で立ち止まり旧西国街道と多田街道を確認した後、緑道へさしかかり白洲屋敷跡を経て、猪名野神社へ到着。有形文化財指定の本殿・幣殿・拝殿の説明、伊丹郷町と近衛家の関係、きしの砦、鬼貫の句碑。市の天然記念物「ムクロジ」の樹の果実は直径2センチほどの球形で、石鹼に代用できるとか。2人の男性が興味深そうに何個も拾っていました。中身の濃い猪名野神社を後にして、一路ミュージアムへ。私たちの会員委託業務はここで終了しました。参加者はどなたも熱心で質問も多く、実りある有意義な史跡めぐりでした。(本郷 記)

研修サロン班活動報告 令和7年12月4日

近隣市めぐり「大塩平八郎と伊丹—大阪市北区」

12月4日(木)大塩平八郎の乱ゆかりの地など天満界隈を巡るため、大阪シティバス「桜宮橋」バス停に14名が集合。ついでに今期一番の寒気団も一緒に来たため骨身にしみる寒さであった。

まず造幣局の中の博物館を見学。ちょうど入館したときが10時だったので創業当時の大時計が時報の鐘を打っていた。ほかに、貨幣制作の仕組み（皆な関心していた）、昔の貨幣やオリンピックのメダル、勲章等を見学した。その後道路向かいにある泉布観（右写真）と旧桜宮公会堂の建物外観を見学した。泉布観は造幣局の「応接所」として建てられ建物の正面は大川に面して当時舟運が交通の動脈であったことをうかがわせる。大阪市では、現存する大阪最古の洋風建築であり、国の重要文化財にも指定されている。旧桜宮公会堂は明治天皇記念館として建設され、正面玄関は明治4年に建てられた「旧造幣寮鑄造所正面玄関」から移築されたものである。西側には池泉式の日本庭園となっていた



造幣局の職員寮の中にある「洗心洞」（大塩が開いていた私塾で陽明学を講義していた）の碑を見た。また同じく造幣局職員寮の敷地内にある与力役宅門（右写真）を見る。



その後国道1号線沿いにある大塩の乱槐（えんじゅ）跡を見学。大塩平八郎が決起した最初の大砲は大塩邸向かいの与力宅裏庭にあった樹齢200年超の槐の木に撃ち込まれた。現在の木は2代目である。大塩邸からはそんなに離れていなかった。

川端康成生誕の地は大阪天満宮の南にある旧料亭相生楼の敷地内にあった。現在は生誕の地を示す碑が残されている。相生楼はマンションになっている。

日本一長いと言われる天神橋筋商店街の途中から西に折れたところに成正寺（じょうしょうじ）という日蓮宗のお寺がある。門前に中齋大塩平八郎墓所の碑が立っている。ここは大阪大塩家の菩提寺である。大塩平八郎・格之助父子の墓（右写真）があり今でも墓参する人がいるそうである。



大塩平八郎の評価は人それぞれいろいろだろうがそれは各自の判断にお任せする。

最後に天神橋商店街の中のお店で暖かい昼ご飯を食べて心も体もほっこりさせて帰路についた。（松島 記）

寄稿

大鹿村と禁制

伊丹ミュージアムWEBの大鹿村解説の次が気になっておりました。今月から始まった尼崎歴史博物館の展示「豊臣期の尼崎と建部氏三代」にあった『慶長19年大坂冬御陣図』に伊丹の記事があり調べてみました。

慶長十九年（1614）十一月三日、大坂冬の陣のまっただなかに大鹿村あての禁制がだされています。内容は軍勢その他が村に迷惑をかけることを禁じたもので、戦争という非常時において、いざというときに村を守ってくれる性格のもので、禁制をだした「松平武蔵守」は、大坂冬の陣の際尼崎に駐留していた姫路藩主池田利隆であることがわかっています。

（伊丹ミュージアムWEB）

画面の右下隅（方位は北西）に、虫損で一部判読できない部分があるが十月四日に片桐且元が堺への加勢のため送った軍勢が尼崎長洲で陣したところ一揆が蜂起し、伊丹の鶴塚で

残らず討ち取られたと記されている。

(慶長十九年大坂冬御陣図 尼崎市立歴史博物館蔵)

1. 大鹿村宛の禁制

地域研究いたみ第5号伊東久之「一枚の古文書からー池田利隆禁制発見の経過」に詳しく書かれていますが、1975年10月妙宣寺文書中で発見された伊東久之先生の驚きと感激が伝わってきます。文言は特に珍しいものではなかったが、この時期誰が支配していたかがわかる伊丹の歴史上貴重な発見となるからでした。花押の【松平武蔵守】が池田利隆で確定できたのでした。

2. 伊丹と付近での禁制

この頃の禁制で伊丹に残っているものは無いようです。興正寺別院があった塚口村には織田信長をはじめ十以上の禁制が残っていて慶長十九年十月同内容が勝源寺宛で、板倉伊賀守名で出されている。その他にも同様の禁制は出されたものと考えられる。(立花志稿昭和15年)

3. 松平武蔵守(池田利隆、池田輝政長男)

大坂冬の陣の段階で、尼崎城に在城していたのは建部政長で代官を政長の祖父高光が豊臣秀吉より尼崎周辺の三万石の代官を命じられ、父の光重も豊臣秀頼の近習を務めた後に代官の職を継いだ。徳川氏に服属する契機となったのは、関ヶ原の戦いではなく、むしろ慶長十五年(1610)の政長による家督継承であった。この時、政長が八歳と幼少であったため、豊臣秀頼は建部氏の跡式を没収しようとした。そこで政長は母が姫路城主池田輝政の養女であった所縁から、輝政の義父である徳川家康に取り成してもらい、無事家督を相続することができた。家康はこの時、池田輝政の家臣である池田重利(下間頼広)に政長の後見を命じている(尼崎市地域研究116号 2017年 天野忠幸)。このことが建部氏が初代尼崎藩主を務めることに繋がりました。

4. 政長・重利が且元の手兵を助けず見殺しにしたことが後で問われる。

堺の豪商今井宗薫父子が徳川方のため火薬や兵糧米を調達輸送しており、大坂方はまず堺に攻撃をかけます。これを知った茨木城の片桐且元は尼崎から船で堺へ送りました。ところが尼崎城の建部政長・池田重利は、そうとは知らず怪しんで且元の兵を場内に入れず、渡海の舟も貸さなかったのです。立往生した兵に大坂方軍勢が押し寄せ討ち取られる結果となりました。このことが手落ちとして後で問われ、池田利隆は次のように弁明しています。尼崎城を固めよとの家康の仰せにもとづき家臣を入れているのであり、「尼崎は咽喉の地」で海陸二途を守る要地である。敵のいざないにひっかかって、且元支援のためみだりに城を出て、そのすきに海路から城を襲われ落城の失態をおかすことがあっては天下の一大事である。それで兵を出さなかったと、その旨を家康に伝えて事なきを得たという。この堺・尼崎・伊丹方面での接触を前哨戦として大坂冬の陣の火ぶたは切られた。(尼崎市史第二巻)

以上、歴史はますます進んで行きますが、伊丹・尼崎両博物館の記事から、深く知ることができました。今後もっと広げられたらと思います。(村 記)

学習支援班活動報告① 令和7年9月26日

いたみ民話会公演 荒村寺まちカフェー紙芝居とペンケース作り

荒村寺では、月に一度「まちカフェ」が開催されます。当日は本堂が開放され、障がい者、高齢者、地域の方々が集う憩いの場となります。

9月26日(金)、コーヒーとお菓子が提供され、和やかに交流されている場に、学習支援班7人で「すもう狸」「頼山陽と台柿」のデジタル紙芝居とペンケース作りで参加しました。

「すもう狸」が始まると、ガヤガヤとおしゃべりをしていた人たちも次第に集中し、耳を傾け、子狸のいたずらに笑みを浮かべ、リラックスして楽しんでいる様子が伝わってきました。

「頼山陽と台柿」は演じ手の熱演に会場はシーン。うなずいたり、見入ったりと。そして、台柿に興味深々。後で「台柿は今でも見るができますか」との質問もありました。

「ペンケース作り」では、教える側も作る側も額を突き合わせて、ワイワイ、ガヤガヤと楽しい交流会へと。出来上がったペンケースを手にみんなニッコリ満足な笑顔でした。

紙芝居は子どもたちや大人の心を和ませます。また、民話の紙芝居は伊丹の歴史や史跡も併せて伝えることができます。今後も活動を通して、地元の子どもたちや地域の人々が楽しみつつ、伊丹の歴史や史跡を知る機会になるよう、みんなで研鑽に努めたいと思っています。(角谷 記)



学習支援班活動報告② 令和7年12月10日

いたみ民話会公演 わかばこども園

12月10日(水)10時から「すもう狸(デジタル紙芝居)」と「野間の一本松といたずら狐(紙芝居)」を持って、総勢7名でわかばこども園を訪問しました。対象は5歳児年長さん3クラス70名です。

最初は、子どもたちの歌で、メンバーのハーモニカを伴奏に、「たきび」を三番まで歌ってくれました。三番まで歌えるのかなど、ちょっと心配したのですが、子どもたちはしっかりと元気に歌ってくれました。

次は、デジタル版の「すもう狸」ですが、その前に導入として、リーダーからすもうの話があり、男性メンバー二人がすもうの実演をしながら、「はっけよい、のこった、のこった…」と。子どもたちは、この模擬すもうに「はっけよい」「のこった、のこった」と掛け声をかけ、声援を送ってくれました。そんな盛り上がった中での、「すもう狸」の本番です。出演者も回を重ねるごとにセリフが上手になってきています。

最後は、「野間の一本松といたずら狐」です。この演目の前に、またまた、メンバーからの話がありました。「野間」という地域のこと、伊丹坂の北向地蔵のこと、子どもたちが4月から自分の行く小学校のことなど、航空写真、地図を見ながら、会場は、和気あいあいとした雰囲気になりました。そんな雰囲気の中、昔ながらの小さな紙芝居が始まりました。

メンバーの中には、今回初めて子どもたちの前で演じることになり、子どもたちが熱心に見て



くれるのかと、心配していたのですが、そんな心配もなく子どもたちは見てくれました。終了後、担任の先生から「一時間もじっとしてられない子どもたちですが、今日はすごい集中力！です。楽しかったのでしょうか。」と。

いえいえ、私たちの方が、子どもたちからたくさんの元気をもらいました。子どもたちの真剣な眼差しや笑顔が今も心の中に残っています。(松山 記)

令和8年度いたみ歴史散策（市民ガイド）のご案内

令和8年度市民ガイドは以下の日程・コースでの開催を予定しております。
参加方法など詳細は追って当会ホームページに掲載します。

- | | | |
|-----|--------------|-------------|
| 第1回 | 6月20日（土） | 有岡城の惣構をあるく |
| 第2回 | 9月26日（土） | 伊丹廃寺から有岡城まで |
| 第3回 | 令和9年2月27日（土） | 御願塚古墳・陪塚めぐり |



活動記録（令和7年11月～令和8年1月）

- 【定例会】11/18（火）・12/9（火）・令和8年1/13（火）
- 【史跡ガイド】12団体222名（令和7年4月からの累計実績 33団体542名）
- 【旧岡田家住宅・酒蔵ガイド】11月30日にて終了
- 【研修サロン班】11/13（木）勉強会、12/4（木）屋外研修「大塩平八郎と伊丹」
12/18（木）勉強会「新・伊丹史話を一緒に読んでみよう」
- 【学習支援班】例 会：11/19（水）、12/16（火）、1/20（火）
対外活動：11月30日（日）神津福祉センター
12月10日（水）わかばこども園
- 【ガイド勉強会】11/25（火）「御願塚古墳と陪塚巡り」ガイド実践
1/27（火）「西国街道一千僧村から辻の碑」座学

今後の予定（2月～4月）

- 【定例会】2/10（火）・3/10（火）・4/14（火）
- 【史跡ガイド】[ガイドコース名、参加予定人数]（令和8年1月20日現在）
3/21（土）[西国街道 千僧村から辻の碑、10名]
- 【旧岡田家住宅・酒蔵ガイド】4月11日（土）から6月28日（日）まで実施予定
- 【研修サロン班】2/5（木）勉強会、2/19（木）屋外研修「今井町」
3/5（木）勉強会、3/19（木）屋外研修「京都伏見」
- 【学習支援班】例 会：2/17（火）、3/17（火）、4/21（火）
対外活動：2/21（土）笹原小学校
- 【ガイド勉強会】2/24（火）「西国街道一千僧村から辻の碑」ガイド実践

伊丹市内文化財ボランティアガイドのご案内

伊丹市内にある文化財（史跡）のガイドをご希望される方は、申込書に必要事項をご記入上、下記へお申し込みください。

*申込書は右の2次元バーコードよりダウンロードして下さい。



◇申込書をファックスまたはご持参の場合

伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課 文化財担当へご持参いただくか、ファックスで送信願います。☎：072-784-8090 FAX 072-784-8048

◇申込書をメール送信の場合

文化財ボランティアの会にメール (ibunbora@yahoo.co.jp) でお申込みください。

●ガイドコース

A【荒木村重の居城・有岡城 コース】

有岡城跡，荒村寺，市立伊丹ミュージアム(旧岡田家住宅・酒蔵、旧石橋家住宅)，墨染寺・上臈塚砦跡，猪名野神社(きしの砦跡)など

B【酒で栄えた伊丹郷町 コース】

有岡城跡，大溝跡，市立伊丹ミュージアム(旧岡田家住宅・酒蔵、旧石橋家住宅)，長寿蔵ブルワリーミュージアム など

C【伊丹緑道 コース】

猪名野神社，伊丹緑地(道)，白洲屋敷跡，辻の碑，伊丹廃寺跡 など

D【行基の足跡 コース】

昆陽池，東天神社，西国街道，昆陽寺 など

E【清酒発祥の地 コース】

鴻池神社，慈眼寺，鴻池稻荷祠碑，容住寺，天日神社 など

F【古墳周辺 コース】

御願塚古墳，都市景観形成建築物，須佐男神社，南野神社 など

G【空港周辺 コース】

有岡城跡，桑津神社，加茂神社，称名寺，春日神社，伊丹スカイパーク など

私たちと一緒に 文化財のガイドをしてみませんか

文化財ボランティア養成講座のご案内

当会は、平成 8 年に伊丹市教育委員会が主催した文化財ボランティア養成講座終了者有志により設立されました。現在約 45 名の会員が活動しています。会員は郷土の文化財を愛し、学び、それを更に後世に伝える取り組みをしています。また、様々な経験学習から学び得たことを広く市民に還元することを目的としています。

なお、会員には正会員と準会員があります。今年も 11 月に予定されている文化財ボランティア養成講座(全 4 回)を受講・修了すれば正会員となります。ぜひ、私たちの仲間になって活躍の場を見つけて下さい。

■文化財ボランティア養成講座についてのお問い合わせは下記まで。

伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課 文化財担当 (☎072-784-8090)

